＊2010年9月24日改訂(第2版)
2005年6月10日作成(様式A第1版)

承認番号　21300BZZ00024000

機械器具　21　内臓機能検査用器具

管理医療機器　特定保守管理医療機器　脳波計　11467010

脳波計　EEG-9100　ニューロファックス μ

禁忌・禁止

適用対象(患者)[妊婦、産婦、授乳婦および小児等への適用の項参照]

- CO_2測定に使用するネイザルアダプタ(YG-120T、121T)の新生児への使用

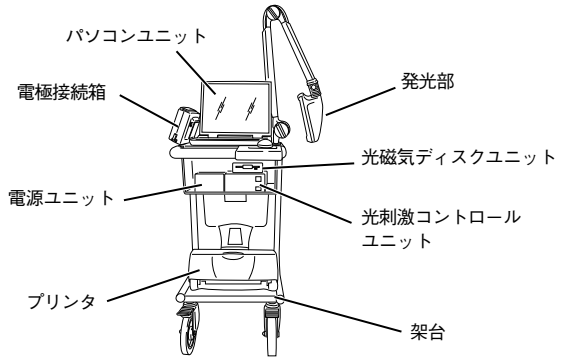
併用医療機器[相互作用の項参照]

- 高圧酸素治療患者装置内での使用
- 可燃性麻酔ガスおよび高濃度酸素雰囲気内での使用

形状・構造および原理等

本装置は、脳波を頭部から電極を用いて導出し、増幅した脳波波形および計測条件等をディスプレイ画面上に表示するとともに、ハードディスクあるいは光磁気ディスク等の保存媒体に記録し、再生または印刷する装置です。
電極接続箱(JE-921A)やスリープアプニアユニット(JE-912A)を使用することにより、各種の睡眠ポリグラフィーパラメータが、効率よく収集でき、睡眠ステージ、睡眠時無呼吸および酸素飽和度等の睡眠脳波検査が行えます。

構成例



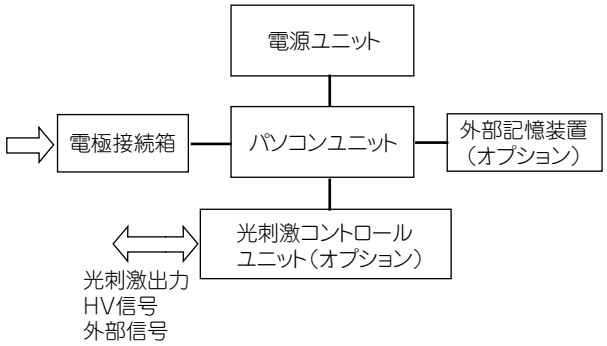
構成機器一覧

名称・型名		個　数
パソコンユニット	CC-901A	1
システムプログラム		1
電源ユニット	SC-901A	1
電極接続箱	JE-910A、JE-911A、JE-921A のいずれか選択	1
スリープアプニアユニット (承認番号21000BZZ00604000)	JE-912A	選択
光刺激コントロールユニット	LS-901A	選択
光磁気ディスクユニット	QM-910A	選択
架台	KE-910A	選択
付属品(一式)		1

- 付属品の詳細については、取扱説明書 12章　技術資料「付属品」の項を参照してください。
- 本装置で使用する電極・センサ類については、取扱説明書 12章　技術資料「オプション」の項を参照してください。
- 本装置で使用する電極・センサ類は、単独で製造承認を取得しております。
- 構成機器類は単体で販売する場合があります。

原理

本装置は以下のブロックで構成されています。



電極接続箱

被検者に装着した電極および各種センサを接続します。生体電気信号は、増幅後、デジタル信号に変換してパソコンユニットへ転送されます。また、JE-911Aは外部機器からの信号を入力し、デジタル信号に変換してパソコンユニットへ転送します。
・電極、各種センサは、EEG-9100取扱説明書　12章　技術資料「オプション」の項を参照してください。

パソコンユニット

測定時には、電極接続箱からの生体電気信号(デジタル信号)の波形データを演算処理し、モンタージュ処理、感度処理、およびフィルタ処理します。得られたデータは、LCD画面に波形として表示するとともに外部記憶装置に出力されます。
再生時には、外部記憶装置などに記憶されている脳波データを呼び出して演算処理し、画面表示などを行います。
また、パソコンユニットに、ネットワークを接続することができます。

電源ユニット

商用電源(AC100V)をアイソレーションし、パソコンユニットおよび外部記憶装置に電源を供給します。

光刺激コントロールユニット

パソコンユニットからの操作情報を受け取り、光刺激や過呼吸賦活を制御します。

外部記憶装置

パソコンユニットで処理された生体信号データをMOディスクに保存します。

使用目的、効能または効果

使用目的

本装置は、脳波、心電図、筋電図および呼吸等の各種生体信号の測定、記録およびファイリングを行う装置です。再生後のデータを各種解析プログラムにより解析処理でき、脳波検査や睡眠ポリグラフィー検査に用いることができます。

品目仕様等

測定項目

脳波測定および解析
睡眠ポリグラフィー測定

性能＊

(1)標準電極増幅部

・入力インピーダンス	100MΩ
・入力回路電流	5×10^{-9}A以下
・雑音	1.5μVp-p以下
・弁別比	105dB以上（60Hz）

(2)データ処理部

・感度	OFF、1、2、3(2.5)、5、7、10、15、20、30、50、75、100、150、200（μV/mm） ±5%以内　ただし1μV/mmは±10%以内
・時定数(低域フィルタ)	0.001(159)、0.003(53)、0.03(5.3)、0.1(1.6)、0.3(0.53)、0.6(0.27)、1.0(0.16)、2.0(0.08)（sec（Hz）） 70%振幅+20%−0%以内 ただし2sは±20%以内
・高域フィルタ	15、30、35、60、70、120（Hz） 50(RAPID)、300（Hz） 70%振幅±20%以内
・ハム除去フィルタ	50 Hz、60 Hz切換　1/25以上減衰
・CAL波形	10 Hz正弦波、4秒周期矩形波 10Hz±2%以内
・CAL電圧	2、5、10、20、50、100、200、500、1000（μV）（DC入力時は1000倍） ±5%以内
・電極抵抗測定（接触抵抗検出回路）	測定閾値　2、5、10、20、50　（kΩ） 誤差±10%以内

(3)表示部

・波形掃引速度	5、10、15、20、30、60(s/page)、5(min/page) 誤差±5%以内
・描画し得る最小入力	2.5μVp-p以下

(4)光刺激／過呼吸賦活

・光刺激周波数	0.5 Hz、1～33 Hz（1 Hz step)、50 Hz、60 Hz ±1%以内
・光刺激用トリガ信号出力パルス幅	10ms以上
・光刺激用トリガ信号出力電圧	3V以上
・刺激時間	1～99 秒（1 秒step） 誤差　±5%以内
・外部トリガ入出力	1V以上5V以下の電圧を入力して発光する
・休止時間	0～30 秒（1 秒step） 誤差　±5%以内
・HVインターバル時間	1.5、2、2.5、3、4、5 秒 誤差　±5%以内
・HVピリオド時間	1、2、3、4、5 分 誤差　±5%以内

(5)直流入力端子(JE-911A ／ JE-921A使用時)

・感度	OFF、10、15、20、30、50、75、100、150、200（mV/mm） 誤差　±5%以内
・雑音	10mVp-p以下

(6)リモートマーク

指定のリモートマークコードを接続して操作した時、タイマーマークの色が変化する

(7)データの記録と再生

・度誤差	±5%以内　ただし、1μV/mmでは±10%以内
・高域フィルタ	70%振幅±20%以内
・時定数	70%振幅±20% -0%以内 ただし、2sは±20%以内

(8)周波数解析機能

・結果表示	解析結果を再生画面のジャンプバーにDSA表示する

(9)脳波検査レポートプログラム(QP-270A)

・レポート表示	脳波データの指定した時間から50秒分のレポート表示をする
・レポートの保存	表示されたレポートを保存し、保存されたレポートを再度読み込める
・スパイク波の自動検出	脳波データファイルからスパイク波の検出を行う
・電位マップ表示	検出されたスパイク波の電位マップ表示を行う

(10)補助プログラム(オプション)

•レビュープログラム(QP-112A)

・データ再生	モンタージュ、リファレンスを正常に切り換えられる

•スパイク／発作検出プログラム(QP-120A/QP-121A)

・スパイク発作検出機能	①スパイク／発作検出動作が行われる ②検出されたスパイク／発作波がイベントリストに追加される

•脳波解析プログラム(QP-211A)

・ファイルのオープン	①サンプルファイルが再生できる ②脳波ファイルが再生できる

•脳波解析プログラム(QP-220A)

・電位マップの表示	電位マップが表示される
・周波数マップの表示	周波数ファイルが表示される
・スペクトルの表示	周波数スペクトルが表示される

•スパイク検出プログラム(QP-251A)

・スパイク検出機能	スパイク検出動作が行われる

•睡眠脳波解析プログラム(QP-260A)

・波形表示機能	睡眠脳波データが表示される
・波形解析機能	睡眠脳波データ解析ができる

•脳波検査支援プログラム(QP-150A)

・電位マップ表示機能の起動	電位マップ表示ウィンドウが表示される
・イメージ波形表示機能の起動	イメージ波形表示ウィンドウが表示される
・イメージ波形の表示	脳波波形が頭図上で表示される
・複数検査同時レビュー機能の起動	複数検査同時レビュー画面が表示される
・DSA表示	最大2チャネルのDSAが表示領域に表示される
・患者映像の表示	画面上の患者画像領域に患者映像が表示される
・イベント表示	イベント情報がイベント領域に表示される
・波形表示	脳波波形が表示される
・スパイク波／発作波検出機能の起動	スパイク波／発作波検出用のウィンドウが表示される
・時系列ヒストグラムの表示	スパイク波の検出結果を時系列ヒストグラムとして表示できる
・スパイク波の加算平均表示	スパイク波の加算平均表示ができる

操作方法または使用方法等

詳細は別途用意されているEEG-9100の取扱説明書を参照してください。

1. 電源を投入する
   パソコンユニットの電源スイッチを入れます。電源表示ランプが点灯し、起動画面が表示されます。電源投入後、内蔵のセルフチェック機構が装置の異常をチェックし、異常がある場合エラーを画面に表示します。
   詳細は、取扱説明書 4章　測定準備「電源の投入」を参照してください。
2. 準備する
   ·画面上の時刻表示を確認します。
   ·検査の状況に合わせて、環境設定を設定します。
   ·被検者に脳波電極·センサ類を装着し、電極接続箱に接続します。
   詳細は、取扱説明書 4章　測定準備の項を参照してください。
3. 測定する
   測定プログラムを起動します。
   被検者の情報を入力後、施設で定められた検査ルーチンにしたがって、電極のインピーダンスチェック、CAL記録、脳波測定を行います。
   脳波データは、ファイルとして保存することができます。測定データの見返し、イベントの登録、光刺激や過呼吸による賦活検査などが行えます。
   詳細は、取扱説明書 6章　測定プログラムの項を参照してください。
4. 再生する
   再生プログラムを起動します。
   保存された脳波データのファイルを開いて、脳波データを画面上に表示します。測定時と異なるアンプ、モンタージュ条件で再生することができます。
   また、高速再生や、イベント·時刻·DSAトレンドなどによる脳波データの検索を行うことができます。
   詳細は、取扱説明書 8章　再生プログラムの項を参照してください。
5. 患者台帳の操作、ファイルの操作
   本装置に登録されている被検者のデータ(患者台帳)や、保存されている脳波データのファイルに対して各種の操作が行えます。
   詳細は、取扱説明書 9章　データ管理機能の項を参照してください。
6. 電源を切る
   検査および各種の操作を終えたら、パソコンユニットの電源を切ります。
   詳細は、取扱説明書 4章　測定準備「電源のオフ」を参照してください。

使用上の注意

使用注意(次の患者には慎重に適用すること)

光刺激
- てんかんの既往患者および疑いのある患者への光刺激[光突発反応(photoparoxymal response)が出現した際は、発作の誘発を防ぐために直ちに刺激を中断してください。]

過呼吸賦活
- 重篤な心疾患、急性期の脳血管疾患、呼吸不全などの患者への過呼吸賦活[動脈血液中の、炭酸ガス分圧の極端な低下と酸素分圧の上昇により、化学調節が働き、血管が収縮して血流量が減少することがある。]

SpO_2の測定(JE-921A ／ JE-912A使用時)
- 高熱の患者、末梢循環不全を起こしている患者[センサの位置を頻繁に変えてください。SpO_2プローブの装着部位は通常2～3℃温度が上昇するため、熱傷を生じることがあります。また、装着部位で圧迫壊死を生じることがあります。]
- 以下の場合は、正しく測定できない可能性があります。
  ·異常ヘモグロビンの量が多すぎる患者(COHb、MetHb)
  ·血液中に色素を注入した患者
  ·CPR中に測定している患者
  ·静脈拍動がある部位で測定している場合
  ·体動がある患者
  ·脈波が小さい患者
- 皮膚の弱い患者[プローブの使用により、まれに皮膚の発赤やかぶれなどの過敏症状が現れることがあります。このような症状が現れた場合は、装着位置を変えるか、使用を中止してください。]

CO_2の測定(JE-921A使用時)
- 換気量の少ない患者[ネイザルアダプタ(YG-120T、121T)は1.2mLの死腔を考慮した換気を行ってください。死腔があるため無呼吸状態の検出が困難になることがあります。]
- 換気量の少ない患者[ネイザルアダプタ(YG-120T、121T)は吸気補正式のため、死腔により吸気にCO_2が混入して測定値が不正確になることがあります。]
- 呼吸数が非常に多い患者または不規則な呼吸をしている患者[測定値自体が不正確になることがあります。]
- 出血傾向、全身状態、栄養状態の悪い患者[マウスガイドが口元に接触し、褥瘡が形成されることがあるので、適時患者の状態を確認してください。]

呼吸測定
- 天然ゴムアレルギー患者[リード線に付いているタグに「This Product Contains Dry Natural Rubber Latex」と記載されている胸郭呼吸センサキットは、天然ゴムを使用しています。天然ゴムは、かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー症状をまれに起こすことがあります。]*

重要な基本的注意

装置本体
- 電源コードは必ず、付属品の3ピンプラグ付き電源コードを使用してください。他の電源コードを使用した場合、患者および操作者が電撃を受けることがあります。
- 本装置の検査結果のみで診断しないでください。診断は、医師が本装置の機能を十分把握した上で、臨床症状や他の検査結果等と合わせて、総合的に行ってください。*
- 測定中は電極を接続していないコネクタに触れないでください。[患者に接続されている他の機器が故障していた場合、患者および操作者が電撃を受けることがあります。]*
- 患者に装着していない電極を電極接続箱に接続したままにしないでください。[患者が電撃を受けることがあります。]*
- 発光部のコネクタは、必ず接続した状態で使用してください。電源がONの状態では、本装置側のPHOTIC LAMP端子に約600Vの直流電圧が出力されており、誤って触れると電撃を受けます。
- 廃棄する場合には、各自治体または施設の基準に従ってください。感染のおそれがある製品を廃棄する場合には、感染性廃棄物として各自治体または施設の基準に従ってください。[正しく廃棄されない場合には、感染や環境に影響を及ぼす可能性があります。]*
- 本装置のUSBコネクタに、USBメモリなど指定外の機器を接続しないでください。[コンピュータウィルスに感染することがあります。]*

電極接続箱
- 集中コネクタには触れないでください。また、接続時は、あらかじめ接地された金属部に触れるなどして、静電気を放電させてから接続を行ってください。[静電気により機器が誤動作することがあります。]
- 電極接続箱にミニ電極接続箱のケーブルを接続する際は、電極接続箱の▼マークとコネクタの▲マークを合わせてください。
  [マークを合わさずに接続すると漏れ電流により被検者が電撃を受けることがあります。]
- 集中入力コネクタを使用しないときは、必ずカバーを取り付けてください。[コネクタが他の導電性のものに触れると、被検者が電撃を受けることがあります。]

脳波の測定
- 被検者に装着したZ電極はアース(大地)または等電位接地端子に接続しないでください。[他の機器からの漏れ電流により被検者が電撃を受けることがあります。]
- 脳波測定時には、Z電極、C3、C4電極を必ず装着してください。[接続していないと、正しい脳波波形が得られません。
- 電極抵抗の測定時には、Z電極、A1、A2、C3、C4電極を必ず装着してください。接続していないと、正しい判定結果が得られません。]
- データを保存する場合、必ず二重にバックアップし適切に保管、管理してください。
  CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD-RAM等のリムーバブルメディアにデータを保存した場合、ファイルを再生してデータが正しく書き込めていることを必ず確認してください。*

SpO_2の測定(JE-921A ／ JE-912A使用時)
- プローブをテープで固定する際は、テープを強く巻きすぎないようにしてください。同時に、センサの装着部位より末梢側にうっ血が生じていないかなどで、常に血流をチェックしてください。[短時間の装着でも血流を阻害し、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります。また、血流の阻害で正しく測定できないことがあります。]
- プローブは一定時間(ディスポオキシプローブは約8時間、リユーザブルプローブは約4時間)ごとに装着部位を変えてください。[SpO_2プローブの装着部位は通常2～3℃温度が上昇するため、熱傷を生じることがあります。また、装着部位で圧迫壊死を生じることがあります。]
- 装着部位が血液で汚れていたり、患者がマニキュアをしているときは、汚れやマニキュアを落としてからプローブを装着してください。血液やマニキュアの色によっては、透過光が減少し、測定誤差を生じたり、測定できないことがあります。
- 通常の使用では、光の影響はほとんど受けませんが、特に強い光(手術灯、太陽光など)の当たる場所で使用する場合は、毛布などで光を遮るようにしてください。[測定精度に影響を与えます。]
- プローブの使用により、皮膚の発赤やかぶれなどの過敏症状が現れた場合は、装着位置を変えるか、使用を中止してください。
- SpO_2を測定しない場合には、SpO_2アダプタのコネクタを本装置から抜いてください。[外れているプローブにノイズなどが混入し、値を表示することがあります。]
- プローブあるいはSpO_2アダプタが故障したことを示すメッセージが表示されたときは、装置の使用を中止してください。必ず新しいプローブあるいはSpO_2中継コードと交換してください。
- 各プローブで推奨する厚みの部位にプローブを装着しても、たびたび「プローブ確認」、「脈波検索中」のメッセージが表示されるときは、プローブの劣化が考えられます。この場合は、プローブを交換してください。
- プローブおよびSpO_2アダプタに関わる取扱いの注意事項については、プローブ、およびSpO_2アダプタの添付文書を参照してください。

CO_2の測定(JE-921A使用時)
- ネイザルアダプタ(YG-120T、121T)の測定対象は、3歳以上または10kg以上の患者です。
- 「Module故障」、「Sensor故障」、「CO_2ハード故障」や「光量が弱い」のメッセージが表示されたときは、CO_2センサキットの点検および交換などを行ってください。[メッセージが表示されているときは、CO_2の測定は停止します。]
- CO_2の測定にあたっては、CO_2センサキット付属の添付文書を参照してください。

相互作用(併用禁忌・禁止:併用しないこと)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
高圧酸素患者治療装置	使用禁止	爆発または火災を起こすことがある
可燃性麻酔ガスおよび高濃度酸素雰囲気内での使用	使用禁止	爆発または火災を起こすことがある

相互作用(併用注意:併用に注意すること)

医薬品
- コロディオン、EEGゲルの使用により、万一、発疹、発赤、かゆみ、かぶれなどの症状が現れた場合は、すぐに使用を中止してください。
- コロディオンやアセトンを使用するときは、これらの液が被検者の目に入らぬよう十分注意してください。万一、被検者の目に入った場合は、清浄な水で十分洗い流してください。
- コロディオンを飲み込んだ場合は、水を飲み、速やかに吐かせてください。
- コロディオンは、揮発性溶剤です。被検者、操作者ともに吸い込まないように十分に注意して、風上から使用してください。万一、多量に吸入した場合は、新鮮な空気の場所で安静、保温にしてください。
- 血管拡張作用のある薬剤を投与した場合、脈波波形が変化し、SpO_2測定値を表示しなくなることがまれにあります。

針電極、頭蓋内電極
- 針電極および頭蓋内電極を使用時には、インピーダンスチェックを行わないでください。
- 針電極による電気刺激は行わないでください。[電気分解により、体内で針が破損することがあります。]
- 脳波用針電極は、脳波や誘発電位を1時間以上導出する電極として使用しないでください。長時間にわたるモニタリングを行う場合は、脳波用皿電極を使用してください。

除細動器
- 除細動を行うとき周囲の者は、患者および患者に接続されている装置やコード類には触れないでください。[放電エネルギにより電撃を受けます。]
- 除細動を行うとき、本装置に接続されたトランスデューサや電極は、患者(被検者)から取り外してください。電極を取り外すことができない場合には電極を電極接続箱側で取り外すか、ミニ電極接続箱ケーブルをミニ電極接続箱側で取り外してください。[放電エネルギで操作者が電撃を受けることがあります。]*
- 除細動を行うときは、患者の胸部に装着した電極および貼付してある薬剤を取り除いてください。[除細動器のパドルがこれらの物に直接触れると、放電エネルギによりその部位で熱傷を生じます。]*

電気手術器(電気メス)
- 電気メスと併用する場合は、電気メスの対極板の全面積を適切に装着してください。[装着が不適切な場合、電気メスの電流が本装置の電極に流れ、電極装着部に熱傷を生じます。詳細は、電気メスの取扱説明書の指示に従ってください。]
- 電気メスと併用する場合は、電気メスの刃先と対極板から充分距離を置いた位置に電極を装着してください。
  電気メスの刃先と対極板を結ぶ高周波電流経路の近くにも電極を装着しないでください。
  充分な距離を取れない電極が装着されている場合、電気メス使用時には電極を電極接続箱側で取り外すか、ミニ電極接続箱のケーブルを取り外してください。
  長時間のモニタリングを行う場合、電極を定期的に確認してください。[電気メスの刃先と電極の距離が近いと、電気メスの電流が電極に流れ、熱傷を生じます。]*
- 電気メスを使用する場合は、接触面積の小さい針電極、銀球電極および頭蓋内電極などは患者から取り外してください。代替手段の電極が無い場合、電気メスが動作する間は、可能な限り電極を電極接続箱側で取り外すか、ミニ電極接続箱のケーブルをミニ電極接続箱側で取り外してください。[電気メスを併用すると電極装着部に熱傷を生じることがあります。]*
- SpO_2が正しく測定できない場合があります。[電気メスのノイズ]

磁気共鳴画像診断装置(MRI装置)
- MRI検査を行うときは、本装置に接続されている電極およびトランスデューサ類を患者から取り外してください。[誘導起電力により局部的な発熱で患者が熱傷を負うことがあります。MRI検査と併用する場合は、MRI検査用に対策された電極を使用してください。詳細は、MRI装置の取扱説明書の指示に従ってください。]

酸素マスク
- ネイザルアダプタ(YG-120T、121T)と酸素マスクを併用している患者のCO_2濃度測定。[吸気中にCO_2ガスが含まれている可能性があり、実際の測定値よりも値が低く表示されることがあります。]詳細は、CO_2センサキット付属の添付文書を参照してください。

周辺機器

- 本装置に各種の周辺機器を接続する場合は、必ず当社指定の装置を定められた方法により使用してください。[指定外の機器を接続すると、漏れ電流により患者および操作者が電撃を受けることがあります。また、火災や故障の原因になります。]
- 複数のME機器を併用するときは、機器間に電位差が生じないように等電位接続をしてください。[筐体間にわずかでも電位差があると、患者および操作者が電撃を受けることがあります。]
- プリンタの電源は、必ず医療用アイソレーショントランスを経由して供給してください。[指定外の接続を行うと、患者および操作者が電撃を受けることがあります。]
- プリンタを専用架台に搭載しない場合、プリンタは、「患者環境外(IEC60601-1-1)」に設置してください。[患者環境に設置すると、患者および操作者が電撃を受けることがあります。]
- 延長コードや追加のマルチタップを使用しないでください。[保護接地のインピーダンスが増大し、患者(被検者)および操作者が電撃を受けることがあります。]*
- マルチタップは床に置かないでください。[ほこりや液体の浸入により、装置が故障する原因になるだけでなく、患者(被検者)および操作者が電撃を受けることがあります。]*

ネットワーク

- 本装置をネットワークに接続する場合は、必ず当社指定の方法により接続してください。[指定外の接続を行うと、患者および操作者が電撃を受けることがあります。]

妊婦、産婦、授乳婦および小児等への適用

SpO_2の測定について(JE-921A ／ JE-912A使用時)

- 新生児、低出生体重児については、プローブをテープで固定する際に、テープを強く巻きすぎないようにしてください。同時に、センサの装着部位より末梢側にうっ血が生じていないかなどで、常に血流をチェックしてください。
  [短時間の装着でも血流を阻害し、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります。また、血流の阻害で正しく測定できないことがあります。]
- 新生児、低出生体重児については、症状および程度に応じてセンサの装着部位をより頻繁に変えてください。
  [新生児および低出生体重児は皮膚が未成熟であり、SpO_2プローブの装着部位は通常2～3℃温度が上昇するため、熱傷を生じることがあります。また、装着部位で圧迫壊死を生じることがあります。]

CO_2の測定について(JE-921A使用時)

- 新生児に対してネイザルアダプタ(YG-120T、YG-121T)は使用できません。[死腔(YG-120T、121T:1.2mL)があるため]

貯蔵方法および使用期間等

使用環境条件

温度範囲	10～35 ℃
湿度範囲	30～80 %(結露状態を除く)
気圧範囲	70～106 kPa

保存環境条件

温度範囲	−20～65 ℃
湿度範囲	10～95 %(結露しないこと)
気圧範囲	70～106 kPa

耐用期間

6年(当社データの自己認証による。定期点検を実施した場合に限る)

保守・点検に係る事項

装置を正しく使用するために、定期点検を実施してください。詳細は、EEG-1000シリーズ／ EEG-9100／ EEG-7400シリーズ保守点検マニュアルを参照してください。

包　装

パソコンユニット(CC-901A)	:1台単位で梱包
電源ユニット(SC-901A)	:1台単位で梱包
電極接続箱(JE-910A/911A/921A)	:1台単位で梱包
光刺激コントロールユニット(LS-901A)	:1台単位で梱包
光磁気ディスクユニット(QM-910A)	:1台単位で梱包
架台(KE-910A)	:1台単位で梱包
スリープアプニアユニット(JE-912A)	:1台単位で梱包

製造販売 日本光電 日本光電工業株式会社
東京都新宿区西落合1-31-4 〒161-8560
(03)5996-8000(代表) Fax(03)5996-8091
製造業者 日本光電富岡株式会社